

誰が得をし、誰が不利益を受けるのかという視点も含めて、「何が本当なのか」を考える

博士課程1年 石川美幸

講義を拝聴し、また資料を拝読して、いまの時代において「何が真実で、何が事実なのか」を自分で見極めることの難しさを、改めて深く考えさせられました。

私はこれまで、社会を大きく揺るがせた事件や出来事に接したとき、報道されている内容や、多くの人が語っている意見の中に、ある程度の「確からしさ」があるのではないかと、どこかで考えていたように思います。

しかし今回の講義では、袴田事件や子宮頸がんワクチンをめぐる問題、さらに北陵クリニック事件のように、社会の中で強く流通した説明や印象が、必ずしもそのまま真実を表しているとは限らないことを、非常に重く受け止めました。特に、北陵クリニック事件について、当時の捜査や裁判で重視された筋弛緩剤鑑定や中毒説そのものに重大な疑義があること、さらにメディア報道や「科学捜査」への過信が世論形成に大きく関わったことが論じられており、大きな衝撃を受けました。

講義を通して強く感じたのは、真実や事実は、必ずしも大きな嘘ひとつで歪められるのではなく、小さな思い込みや都合のよい解釈、断片的な情報の積み重ねによって、少しずつ見えにくくなっていくのではないかということです。

そうしているうちに、何が本当なのか、誰の言葉を信じればよいのかがわからなくなり、人々は不安の中で、より強い言葉や刺激的な情報に引き寄せられてしまうのだと思いました。

また、自分自身がもし当事者になったらどうするのか、ということも考えました。本来なら力になってくれるはずの組織や制度が、必ずしも安心して頼れるものとして見えない場面もあるのではないかと、誰に相談し、誰に本音を話せばよいのか分からなくなるのではないかと感じました。情報が多すぎる時代だからこそ、かえって人は孤立しやすいのかもしれない。

とりわけ SNS については、便利である一方、非常に強い影響力を持つ存在であり、私はある意味、モンスターのよう側面を持つものだと感じています。次々と情報が流れ込み、自分の感情が刺激され、いつの間にか振り回されてしまう危うさがあります。しかも、その場の空気や多数意見に引っ張られることで、自分の頭で考えることが難しくなる怖さもあると思います。

そのような中で、自分にできることは何かを考えたとき、ひとつの情報だけに依存せず、多面的に情報を取り入れること、そして、できる限り一つの立場や感情に呑み込まれないことが大切なのだと感じました。完全な中立は難しいとしても、少なくとも「自分はいま何に影響されているのか」を意識し、すぐに断定せず、立ち止まって考える姿勢が必要なのだと思います。

今回のご講義は、単に一つの事件を知るためのものではなく、情報化社会の中で私たちがどのように物事を受け止め、判断し、生きていくべきかを問い直す大変貴重な機会となりました。今後は、目の前の情報をそのまま受け入れるのではなく、誰が得をし、誰が不利益を受けるのかという視点も含めて、より丁寧に考えていきたいと思っています。

改めまして、貴重なご講義をありがとうございました。今後の学びや日々の判断に活かしてまいりたいと思います。